# 大分大学教職大学院
# ホームカミングデイ新企画：「教育実践の探究」で修了生支援
## （教職大学院セミナー：「社会に開かれた教育課程を実現する学校改善と教育実践」）

### 教職大学院セミナーの目的：

修了生アンケートの中に見られる「修了後の継続学修」へのニーズに応えるべく，令和５年度より教職大学院セミナーをホームカミングデイに組み込んで実施している。修了生及び在学生の教育実践報告を題材に，学界で活躍する外部講師から「最新の知見に基づく講評」をいただきながら，グループディスカッションによる省察的で深い学びに誘うことを目的とした。

### セミナーの内容：

本セミナーは2本の報告と講評，グループディスカッションという構成とした。①修了生の松原圭一朗教頭（日田市立石井小学校）より大学院での研究実践活動を生かした学校経営について，②学卒院生の平嶋拓人さんと宮川遼大さんより実習校と教職大学院との実践・研究の往還について報告があった。それらを受けて，曽余田浩史教授（広島大学）と田上哲教授（九州大学）から講評と，その後のグループディスカッションへの「問い」をいただいた。その問いを手がかりに，グループでの議論は大いに盛り上がった。

### 日程・参加者等：

令和6年7月27日(土)14:30～17:00に実施し，参加者は44名，うち本学大学院関係者34名，現職教員10名（修了者）であった。

### 成果と課題：

コメンテーターを外部講師に委ねることで，ホームカミングデイの趣旨でもある「修了生と在学生，本学教員との交流の場」が十分確保できた。（各グループに一人以上参加）一方，最適な開催時期を設定したつもりであったが参加者数が期待していたものより少なかった。さらに魅力あるプログラムを準備し，アピールしていかなければならないと感じた。

松原 圭一朗
宮川 平嶋
教職大学院

(左)松原圭一朗教頭（令和5年度修了生），(右)平嶋拓人院生（2年生）の報告の様子。質疑応答の時間には，現職院生や学卒院生から自身の教育実践研究の問題意識に沿った質問や意見が出され，有意義な時間となった。

曽余田 教授
コメンテーター

曽余田浩史教授（写真）の講評の様子。主に松原教頭の学校経営について触れ，学校の掲げるスローガンが学校づくりにどのような影響・効果をもたらすのか，検証が必要だとの問いが投げかけられた。田上哲教授は平嶋・宮川両院生の報告に触れ，「実践とは学修と研究に媒介されるものであり，創造性と倫理性を兼ね備えた実践こそが真の授業である」と述べ，授業づくりに向き合う教師の姿勢を示した。

グループディスカッションの様子。グループ構成は，修了生と在学生，そして本学教員とが混成となるようにして，相互に学び合える環境を整えた。講師の問いに悩みながらも，現状の立ち位置から言葉を絞り出していた。

本質的な問いを考えることの難しさとその重要性を改めて感じられるひとときであった。地域に根ざす教職大学院の役割として，このような機会を設けることの大切さを感じた。

本研修は教職員支援機構の「NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業」に採択されて実施したものである。